

臨床研修における図書・秘書室の役割 ～学生見学から応募・採用まで～

北村 弘美, 篠原 澄子, 山下 幸夫, 杉崎 富夫
高橋久美子, 松岡 伸一, 大西 勝憲, 秦 温信

札幌社会保険総合病院 臨床研修委員会

当院は2003年から初期臨床研修医を受け入れ、臨床研修に関する業務を図書・秘書室で主に2名で行っている。見学を希望する学生には、研修医との直接対話の機会の要望が多いことから、研修医と行動を共にする時間が多くなるような日程となるように配慮をしている。われわれ図書・秘書室の職員は学生と当院との窓口であることを常に念頭に置き、細やかで、迅速・丁寧な対応に努めている。

キーワード：臨床研修医制度、臨床研修医

はじめに

当院は、1999年に300床未満の病院では全国初の臨床研修指定病院となり、2007年にはNPO法人卒業後臨床研修評価機構による医師臨床研修評価受審証を取得している。当院での研修医の採用は、2004年より日本臨床研修マッチングプログラム（以下マッチングとする）によって行われている（表1）。マッチングとは、「医師免許を得て臨床研修を受けようとする者（研修希望者）と、臨床研修を行う病院（研修病院）の研修プログラムと研修希望者及び研修病院の希望を踏まえて、一定の規則（安定マッチングのアルゴリズム）に従って、コンピューターの組み合わせを決定」する方式である。¹⁾

当院のマッチングによる当院プログラムでの受け入れ人数は2004年1名、2005年2名、2006年6名、2007年5名、2008年5名となっている。また、2006年からは定員を6名とし採用を行っている。括弧内は、マッチングによらない研修医の受け入れ人数を示したものである（表2）。

表1 臨床研修に関するながれ

1946年	実地修練制度(インターン制度)	卒業後1年以上
1968年	臨床研修制度の創設	免許取得後2年以上(努力規定)
1999年	臨床研修病院に指定	
2004年	新医師臨床研修制度	2年以上(必修化)
2007年	医師臨床研修評価病院に指定	

表2 当院の受け入れ人数

2004年度	1名(5名)
2005年度	2名(2名)
2006年度	6名
2007年度	5名
2008年度	5名

方法

当院の2003年の臨床研修医受け入れから、2008年度に至るまでの研修医の状況と見学から採用に至るまでの図書・秘書室の役割について検討し報告する。

主に臨床研修業務にあたる2名の図書・秘書室での年間スケジュールや見学者・受験者の実績を元に図書・秘書室における役割を検討した。

結果

年間を通じての研修医採用に関する主なスケジュールは4月の合同説明会参加に始まり、採用試験にまつわる事務手続き、次年度の採用に関わる事務手続きを通常の医局秘書業務、図書業務と並行して行っている。また、年間を通じて見学希望の医学生には、見学希望の科の医師との調整・連絡、学生への連絡と対応している。

また、2007年度は募集要項についてもデザインの見直しから掲載内容に関しての見直しも行った。以前は、B5判を半分に折ったサイズを見開きで見る

というもので、研修内容や、研修期間の例、処遇についてシンプルに書かれているものだったが、現在のものは、A4判の冊子状で、研修内容や処遇についての記載は変わらないが、現役の研修医に依頼した研修についての文章や、実際のローテーションなどより具体的に研修生活がイメージしやすいような内容を掲載している(図1)。



図1 募集要項

れがしやすくなったことなどが考えられる。また、当院の特徴のひとつともいえる総合診療科に関しては、毎年希望する学生が約12%と平均して多くなっている。全体的に、外科系を希望する学生に対し、内科の見学を希望する学生が多い傾向にあることが見てわかる。

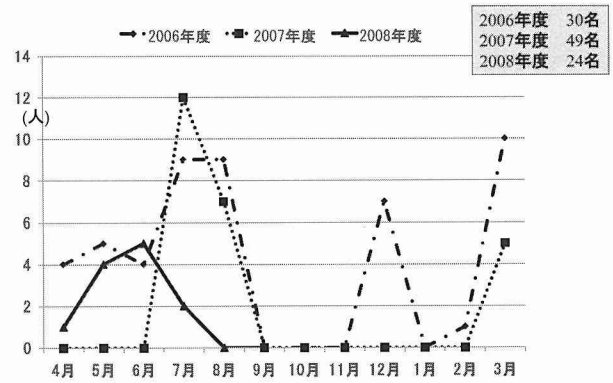


図2 各月の学生見学者数

2006年度からの当院での見学を希望する学生の各月による受け入れ人数である。大学が夏休みに入る7月、8月と春休みに入る3月に希望する学生が多くなっていることがわかる(図2)。また、採用試験を受験する1年前の大学5年生の夏休み、春休みに見学に来て、試験前の6年生の夏休みに再度見学に来る学生が多いようである。

学生の見学希望者が多くなる大学の夏休みや春休みは、一般的にもお盆休みや医師の春の人事異動の時期とも重なるため、日程の調整が難しくなるのもこの時期といえる。

また、2006年度から2008年度の3年間での見学者に対する採用試験受験者の割合は、毎年約50%近くとなっており見学に来た学生の半数が当院の採用試験を受験していると言える。見学者が多ければそれに比例して受験者も増加すると言えるのである。

2006年度から2008年度の3年間の見学希望の主な科をまとめたものである(図3)。2006年度に全体の33%と希望の多かった消化器科は2008年度には12%まで減少し、循環器科は7%から30%と希望が増えている。これは要因として、循環器科に興味を持つ学生の増加や、循環器科の医師の増員により受入

■ 外科 □ 総合診療科 ■ 循環器科 □ リウマチ科
■ 消化器科 □ その他

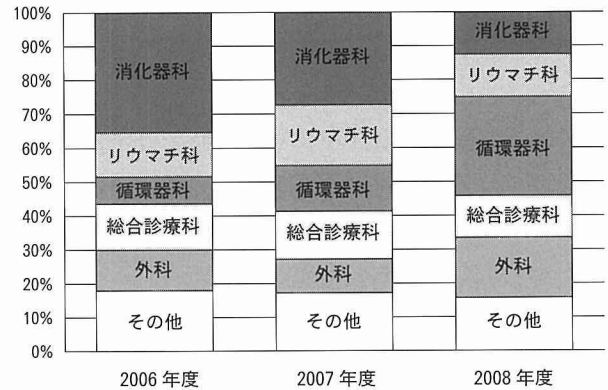


図3 科別見学希望割合

また、見学希望者の在籍大学は、北海道内の医大および医学部のある大学からが毎年70%程度で、残り30%は道外の様々な大学からの見学希望者である。この30%の学生の中には、高校まで北海道で学び、大学から道外へ行き、再び実家のある道内で研修をしたいと考え、大学の夏休み、春休みに帰省した折に見学をしようとする学生が多いようである。そういった道外からの見学希望者の交通事情等も考慮すると、見学スケジュールなどのより一層迅速な対応が要求される。

考 察

今後は大学病院等の方針もあり、見学者・受験者ともに急激な増加は難しいといえる。しかし見学者数の増加に比例して受験者数も増加する。つまり、たくさんの人に見学に来てもらえれば、当院の良さをわかってもらえ当院で研修したいと思って受験してもらえるとということになる。そこでどうすれば、「見学に行きたい」と思ってもらえるかプログラム責任者を交え、現在在籍している研修医にも協力してもらい絶えず対応を見直さなければならないといえる。

また、見学希望者の見学希望の科に傾向はみられるものの、「研修医の生活全般」や「病院の雰囲気」を知りたい、という要望が多いため、研修医ケーススタディカンファレンス・モーニングレクチャーと

いったその時々研修医に関連した行事も積極的に案内し、学生と研修医の話をする機会を作る必要性がある。

ま と め

こうしたさまざまな学生の要望に、ひとつひとつ迅速かつ丁寧に対応していくことで意欲ある学生の見学・応募につながると考えられる。また、意欲ある研修医を採用することにより活気ある病院づくりへつながっていくと考える。

参考 URL

- 1) 医師臨床研修マッチング協議会ホームページ：
<http://www.jrmp.jp/>

Role of staff in the library and secretary's office in clinical training- From student's visit to application and employment

Hiromi KITAMURA, Sumiko SHINOHARA, Yukio YAMASHITA,
Tomio SUGIZAKI, Kumiko TAKAHASHI, Shinichi MATSUOKA,
Katsunori OHNISHI Yoshinobu HATA

The library and secretary's office, Sapporo Social Insurance General Hospital
committee for medical training

Since 2003, our hospital has accepted trainee doctors in their first stages of clinical training, with the duties related to overseeing their training mainly being carried out by two people in library and the secretary's office. Because students who wish to visit the hospital often ask to meet with the trainee doctors, we attempt to create a schedule that allows them to have sufficient time with the trainee doctors. We staff in the library and the secretary's office are always mindful of the fact that we are the point of contact between the student and the hospital, doing our best to be thorough, prompt and polite.